

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970800874
法人名	NPO法人ふるさと
事業所名	グループホームふるさと竜王
所在地	〒 400-0114 山梨県甲斐市万才449-5 電話番号 055-279-2796

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年1月28日	評価確定日	平成20年2月27日

【情報提供票より】平成20年1月18日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月19日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人				
職員数	8人	常勤	3人	非常勤	5人	常勤換算	5人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	68,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(100,000円) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	— 円
	または1日当たり — 円			

(4) 利用者の概要 平成20年1月18日 現在

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	63 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	花の丘たちかわクリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年1月30日

住宅密集地にある2階建ての建物を改造したホームで、近隣の住宅と違和感もなく、地域に溶け込んだホームである。緩やかなスロープの玄関の横にジュースの自動販売機があるので、近所の工場で働く人達がジュースを買いに来たときにはお互いに挨拶を交わし地域の人たちとの触れあいも普通に行われている。また、プランターには春を呼ぶパンジーが植えられ、番犬の「ももちゃん」がお客さんを歓迎してくれる。朝の掃除や食事づくりは、みんなで協力し合い取り組んでいる。散歩の時は地域の方々に声をかけ、一人でも多くの住民にホームや利用者を知ってもらえるように心掛けている。管理者も利用者と一緒に働き、支え合う家族の様子が伺え、おごりなく一般的な普通の家庭の生活に一体感が感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 馴染みの品物を部屋に置くようにいわれたが広い収納場所があり利用者は便利に開け閉めして生活している。お風呂場の洗剤保管は倉庫に収納し鍵を掛け、書類やお小遣い帳などの捺印もきちんと押し(家族確認印も)伝達改善がされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 改善シートを別とじにして置くと次回の時に何処がどう改善されたか一目瞭然に解り施設のレベルアップにつながる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的な運営推進会議では出席者に外部評価の報告をしたり行事参加のお願いをしている。甲斐市独自のグループホーム会議があるので課題となっているターミナルケアについても他施設を参考にしてより良い向上に務めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月利用料の支払いに来る家族の気持ちを聞いている。手紙を頂いたり身内を案じる心情は計り知れない。何でも自由に意見を言えるオープンな体制で職員は家族に接している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 「おかず食べて」と近所の主婦からの差し入れや近所の子供がホームで飼っている犬と遊んだり、ごく普通の近所付き合いがある。散歩の途中にお墓の掃除やゴミ拾いをし、地域への貢献も積極的である。「もっと仲良く」を心情に幅広いつながりに期待します。

2. 調査報告書

事業所名: グループホームふるさと竜王

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関を入ると基本理念と運営規程がコピーで掲げられている。安心して生活でき愛情ある家庭的な雰囲気を提供します。その人らしい生活の支援が記されている。	○	現在の理念は難しく馴染めないのが独自の理念を思案中との事。簡単明瞭、心温まる一言、誰でも解りやすく覚えられる理念を期待する。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングと職員会議の時にその人らしい生活の自立と支援を確認しあっている。介護者全員で理念に基づき仕事に励んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会と組に加入し回覧板、広報が隣から届く。地域の行事、(どんど焼き、神社の祭り)に参加し住民として楽しむ。散歩の時に声をかけたりかけられたり親しみがある。隣にお中元、お歳暮で親しい関係づくりを図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回、お風呂場の洗剤の指摘があり倉庫に置くようになった。金銭出納帳に家族の確認印を指摘され改善した。運営推進会議で話し合い資質向上に取り組んでいる。	○	調査記録と別に改善計画シートを作成する。別とじて解りやすくしておくことと次回の時、改善点が一目で解り便利。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議をする。区長や家族の会長・市の関係者・民生委員・職員で話し合い率直な意見を出し合う。ホームの報告や行事の参加依頼をする。特に8月の納涼会と12月のクリスマス会は運営委員全員の協力をお願いする。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の依頼での入居者がいる関係で保健師や行政担当者の来訪が多い。行政とオープンに話のやりとりができ、太いパイプで質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1度、ホーム便りを郵送している。利用者の生活や身体の報告は状況の変化に応じ電話連絡をしている。家族は毎月入居料金を支払いに来るので、その時にお茶を入れ情報交換や希望を聞き気軽に対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に黄色の苦情箱を設置している。家族会はないが納涼会やクリスマス会の時、家族の意見・不満や希望を聞き施設の運営向上に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	大規模な施設ではなく昔ながらの大家族の生活が営まれている感じがする。職員の異動はなく臨機応変に職員の応援態勢がとれ顔馴染みの介護で安心感がある。利用者の穏やかな表情にのんびりしたゆとりが伺える。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者は初任者研修を1ヶ月受講する。グループホーム協会や外部の研修会を受け出席者は会議で全員に報告をし学習している。資格試験や受講料は運営者負担で職員のレベルアップに前向きに取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	甲斐市独自のグループホーム会議があり、加入している。グループホーム協会や県の勉強会に参加して他施設との交流を深め切磋琢磨して質の向上に務めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者は職員が自宅訪問をして家族の様子や生活状態を把握してから入居する。また、「デイサービスふるさと」があり、そこからの入居も受け入れるようにしている。利用者が不安にならないように家族と話し合い当事者の理解を充分得て入居生活に入る。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の大先輩で身体で物事を覚えている。神棚は男の人が手入れをする、若い職員に何気なく指導してくれ勉強になる。食事中、片方の手でいたずらをしている人がいたら「茶碗をもたせてみろし」と教えてくれたり細かい気配りが有難い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	子供同様に可愛がっていた犬を連れて入居している利用者がいた。職員は不衛生になるので犬をお風呂に入れオムツをして清潔に心がけている。全員が居間に集まり手芸や花札をして本人本位の楽しみをにこやかにしていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回、職員全員でカンファレンスを行う。利用者の状況の変化(連絡ノート)に応じて話し合い介護計画の見直しを行う。毎月来る家族の意向も取り入れ作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期で3ヶ月長期で6ヶ月に1度、介護計画の見直しをしている。特に注意を要する利用者は事務所の掲示板に状況を書き職員に伝達する。状況の変化がある時は、家族の承諾を得て新たに介護計画の作成をする。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の奥さんが入院したので職員同行でお見舞いに行った。身内の葬儀やお墓参りの同行もしている。型にはまらず臨機応変に対応し柔軟な多機能を活かした個々の希望に添った支援体勢がとられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医の受診は職員が同行している。境川にある花の丘クリニックの医師がホームドクターで予防接種や定期検診、急病など往診できてくれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師が2名いるので簡単な病気は良いが最終ターミナルについては医療機関にお願いしている。終末期にむけては入居の時に家族の了解を得て本人の意向に添う支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者はトイレ誘導でオムツをほとんどあてていない。「ちょっとお部屋にいきましょう」と声をかけ用をたす。部屋に入る時も声かけをしてプライバシーの侵害にならないよう気配りをしている。入浴は羞恥心で同性同士の見守りにするよう配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「何が食べたいか」と利用者の希望を聞きメニューを考え買い物に行く。散歩も意向にそって出掛ける。時には自分で好きな物を買ってレジで支払い金銭感覚を失わないように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ジャガイモの皮むきをしたり食器をかたづけたり洗ったり利用者の出来る事をしてきた。「目を開けて見て食べよう」と声をかけ話をしながら「美味しいね」を言い会話をしながら食べていた。テレビを消し食べることに全員が集中していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルに問題がない場合は自由に何時でも入浴できる。入浴の時は必ず付き添いをするので職員を多くしている。体調の優れない方は足湯マッサージをして気持ちよく睡眠できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「ズボンの裾を縫って」と職員がお願いすると喜んで裁縫道具を持ってきて縫ってくれる。犬の散歩や畑の野菜栽培、大工仕事など身体で覚えた作業を張り切ってする姿は意気揚々と輝きが見え一人ひとりの生活歴や力を活かした生活をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車でファミレスに行き好物を食べたり、花見や苺狩りを楽しんだりする。お弁当持参で魚釣りやバーベキューをする事もある。近くにある「百円均一」のお店は安くて珍しい物がたくさん買えて嬉しい。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に施錠をしていない。誰でも気軽に出入りできるが徘徊の利用者には目配り・気配りで常に視線を向け外に出た時は介護者が後追い支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時に備え常備食・防空頭巾・ヘルメットを事務所に用意してある。4月と9月に非難訓練を実施している。緊急時の際、近隣人の応援態勢のお願いもしている。住宅が密集しているので避難場所は横の畑に集まるように決めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の栄養バランスシートに記録をしている。調理師が利用者の希望を聞いて献立をたて料理を作る。カロリーは栄養士がチェックをして平均を取っている。嚥下などに危険がありそうな利用者は細かくすりつぶしペースト状にしてサポートしていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集うリビングには、畳とソファが置かれ、テーブルを囲んで話をする人、花札をする人など、家族が寄り添っている平凡な日々の生活が伺えた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には1畳ほどの物入れがありハンガー架けや衣装箱がきちんと置かれ整理整頓されていた。小さなテーブルに手芸品を並べ部屋の入り口は独自の名札を下げ解りやすい表示がされていた。		